

産経 health

[> メタボリックシンドローム・ネット](#)
[> メタボリックシンドロームPRO](#)
[> 小児肥満ネット](#)
[> ニッポンの食、がんばれ!](#)

産経健康倶楽部
Sankei Health Club

[>> 会員専用ページトップ](#)

「産経健康倶楽部」会員専用ページ

毎日の生活に役立つ情報をお届けする「産経健康倶楽部」へようこそ！
このページでは、登録された会員さまだけの注目情報を定期的に掲載します。



食がカラダを変える！ *Special* 対談 **新連載**

vol.01 末期がん患者に気力と活力を吹き込んだ「漢方文化」

「薬食茶湯」のススメ

黒岩

今は病気になるれば病院で医者に診てもらいますが、江戸時代前には、医者や病院なんてなかった。漢方医はいたかもしれませんが、一般の人は診てもらえなかったでしょう。だから、体の具合が悪くなったらこれを食べればいい、こんなときにはこれを…という、まさに「おばあちゃんの知恵」で元気を取り戻していたのです。日本の近代化のなかで、西洋医学が一番だと信じ込み、伝えられてきた知恵もほとんど捨ててしまいました。西洋医学は間違いではないけれど、限界にきたのではないのでしょうか。もう一度昔に戻り、古きよき知恵は何だったのかを思い出して、今の医学と融合させることが必要なのではないでしょうか。最近、日本にも漢方を理解する人がだいぶ増えてきたと思います。漢方薬とは違う、漢方「文化」をもっと知り、食が体を変えらるということを学びたいですね。

天野

お父さんのケースでは、私もとてもいい勉強をさせてもらいました。こうした経験を生かし、いま提案したいのは「薬食茶湯(らくしょくさとう)」という言葉にこめた意味です。生薬は草花などから作られますが、その原材料となる食材は心身を癒やし、体をラクにしてくれます。また毎日の生活に欠かせないお茶や、体の外側から自律神経を整えて免疫を高めてくれる薬湯などを生活の中に上手に取り入れることで、病気を未然に防ぐことができると思うのです。

皮膚は内臓の80倍の面積があるそうです。東洋医学では、皮膚から作用する薬湯は、飲む以上の効果があると考えています。食べる、飲む、入浴するなど、生活の一つ一つのシーンで手助けをしていきたいと思っています。黒岩さんの生涯のテーマは「いのち」ですが、「薬食茶湯」が追求するの命の新しいスタイルなのです。



今回は5月中旬以降、漢方文化やその哲学について本サイトおよび産経新聞紙面で紹介します

プロフィール

黒岩 祐治 くろいわ・ゆうじ

神奈川県知事。元キャスター、前国際医療福祉大学大学院教授。早稲田大学政経学部卒。フジテレビジョン在職中に、自ら企画・取材・編集を手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びついた。

天野 暁 あまの しょう

東京大学食の安全研究センター特任教授、未病医学研究センター所長。医学博士。中国国立中医薬大学卒。世界保健機関(WHO)試験合格後、来日し順天堂大学で医学博士号を取得。未病医学の先駆者として日本人の「証」(漢方で体質の意)と食事に関する研究を20年以上続けている。東洋医学と西洋医学の融合による、未病およびアンチエイジングに力を注ぐ。

[未病医学研究センター](#)

【おことわり】

黒岩祐治氏はこのたび神奈川県知事に就任いたしましたが、「食がカラダを変える！」キャンペーンは同氏が強く関心を抱くテーマであり、今後も当初メンバーの1人としてご協力いただきます。

[◀ 前のページ](#)

1

2

3

4

5

6

[📌 インデックスへ戻る](#)



[📄 お問い合わせ](#) [📄 サイトマップ](#) [📄 プライバシーポリシー](#)

Co